

# 景況動向指数(Diffusion Index)

(2020年7月～9月)



経営発達支援事業資料

長浜市商工会

# 調 査 対 象 事 業 所

## 長浜市商工会 管内100事業所

製 造 業（20事業所）

建 設 業（20事業所）

卸 小 売 業（20事業所）

飲 食 宿 泊 業（20事業所）

サ ー ビ ス 業（20事業所）

\*調査期間 2020年7月～9月

この資料は、経営発達支援事業の地域の動向調査に関することの目的で実施した資料です。

### \*DIとは？

本報告書の中で%以外に用いているDI指数とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略です。

各調査項目について増加（上昇、好転、長期化）企業割合から減少（低下、悪化、短期化）企業割合を差し引いた値を示します。

DIが+（プラス）なら強気（楽観）、-（マイナス）なら弱気（悲観）を表します。

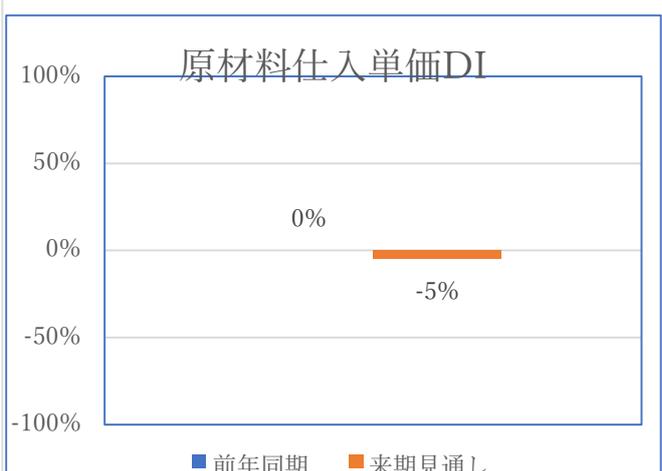
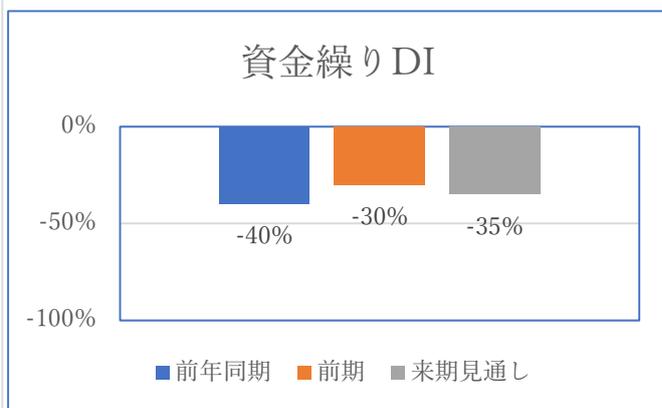
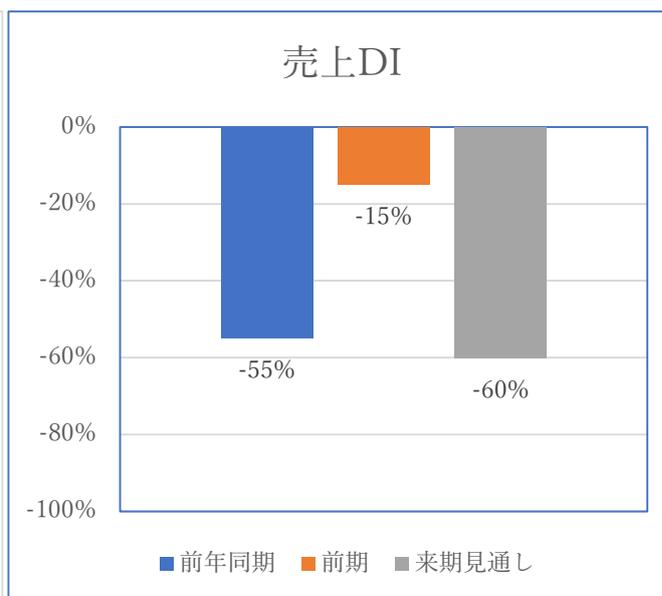
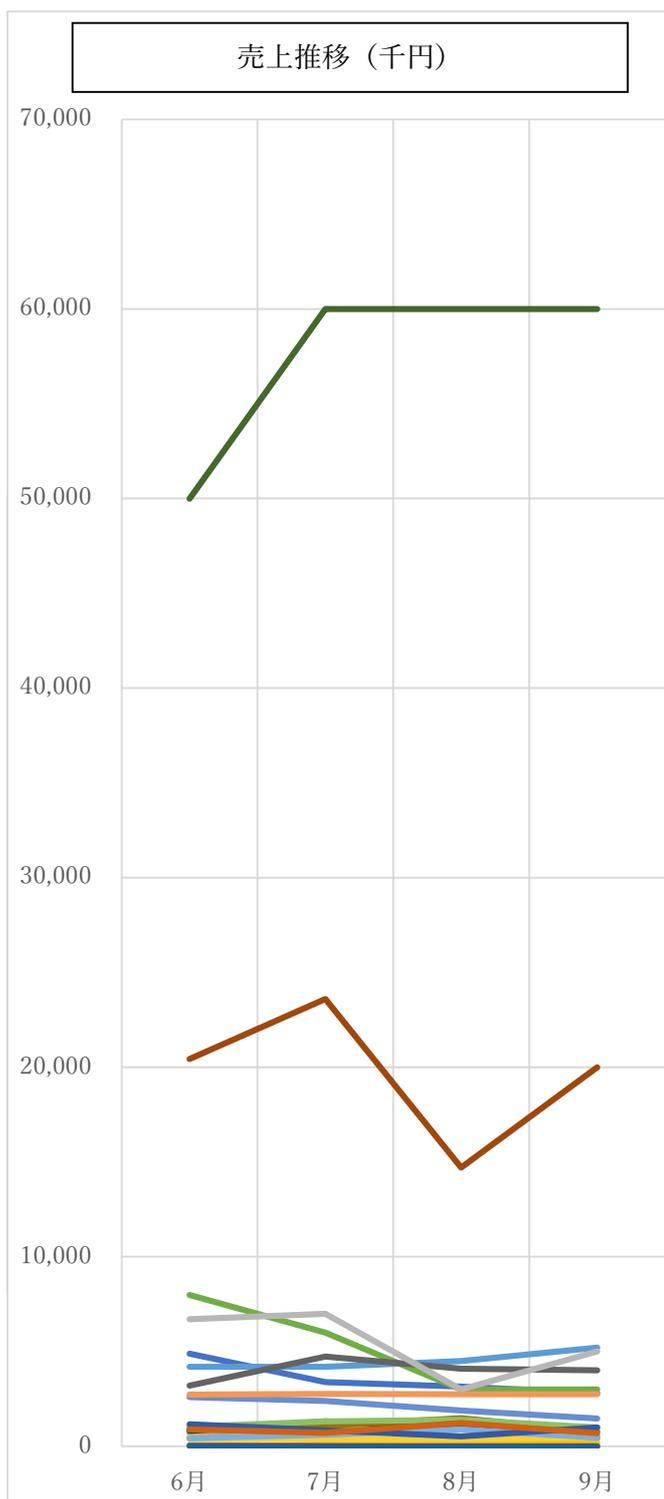
例えば売上高で増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、

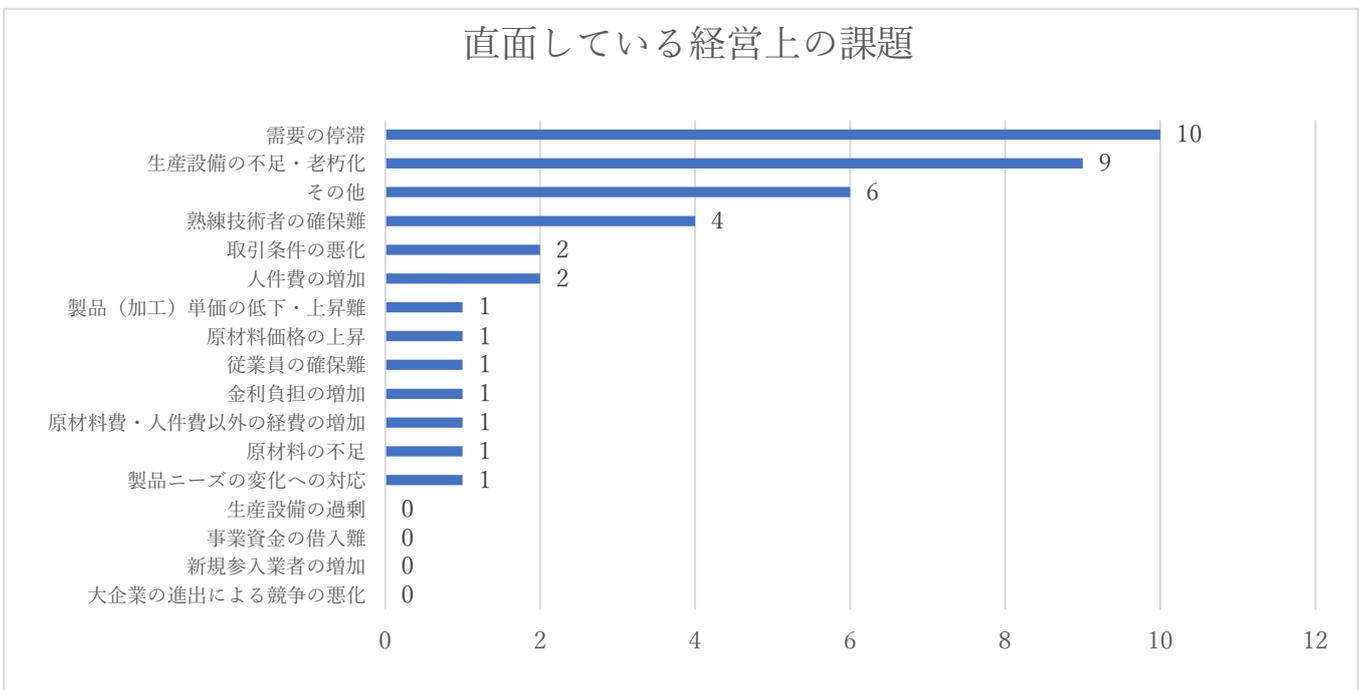
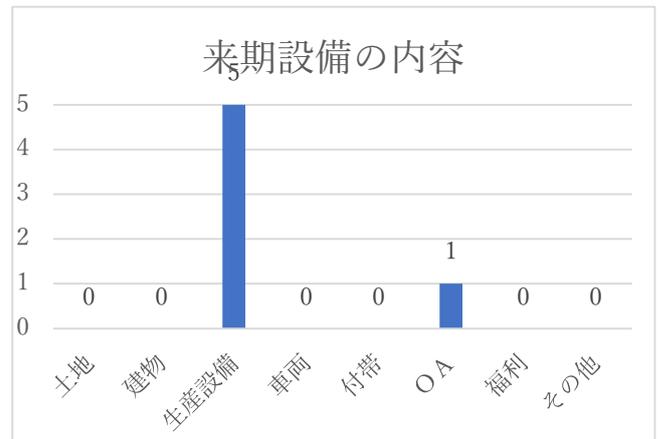
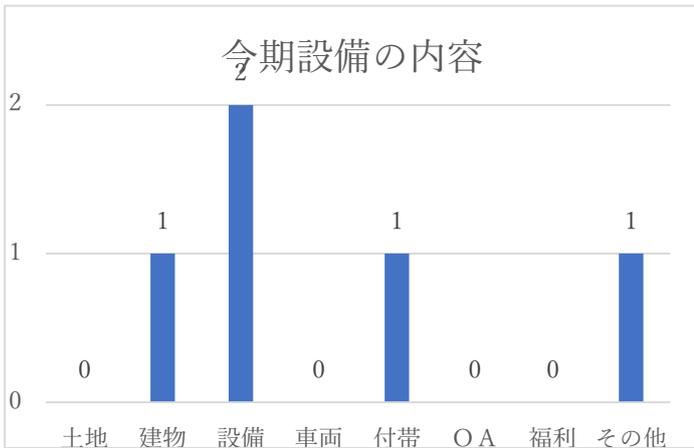
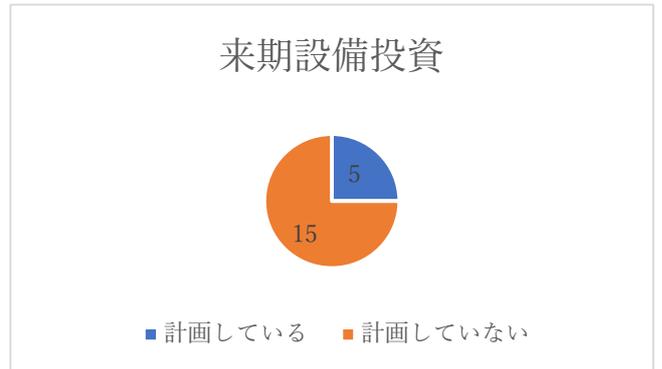
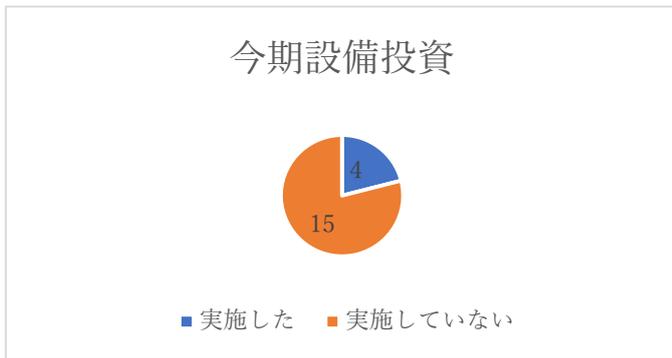
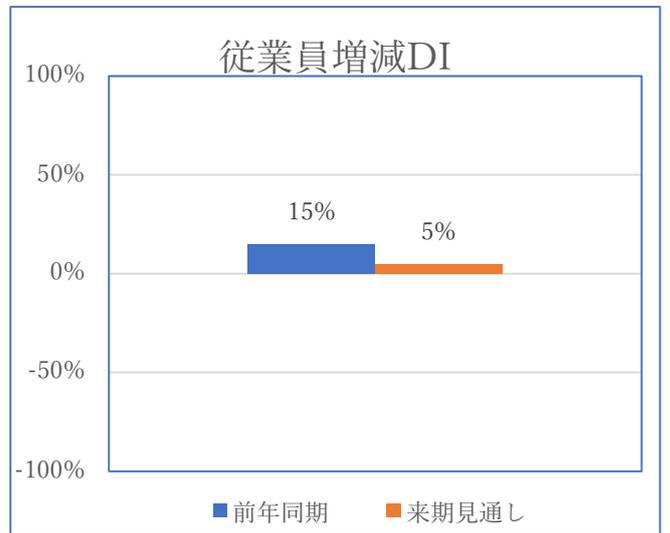
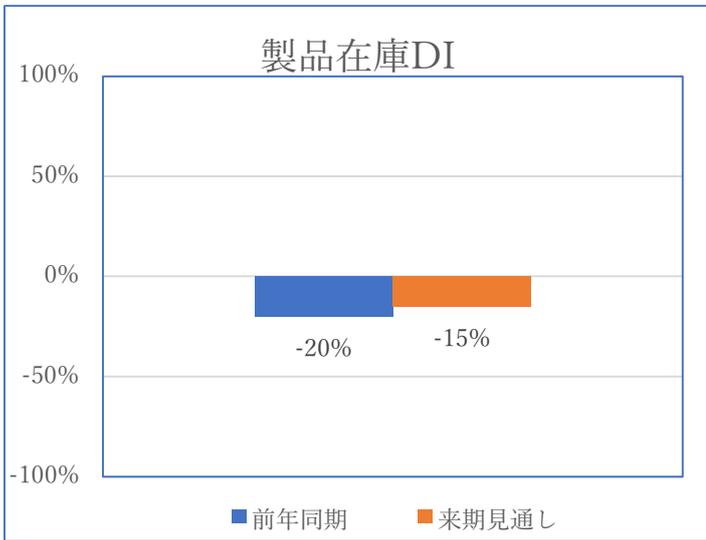
DI指数・・・ $50\% - 20\% = 30$ となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表しています。

製造業（2020年7月～9月）DI 値抜粋

コメント

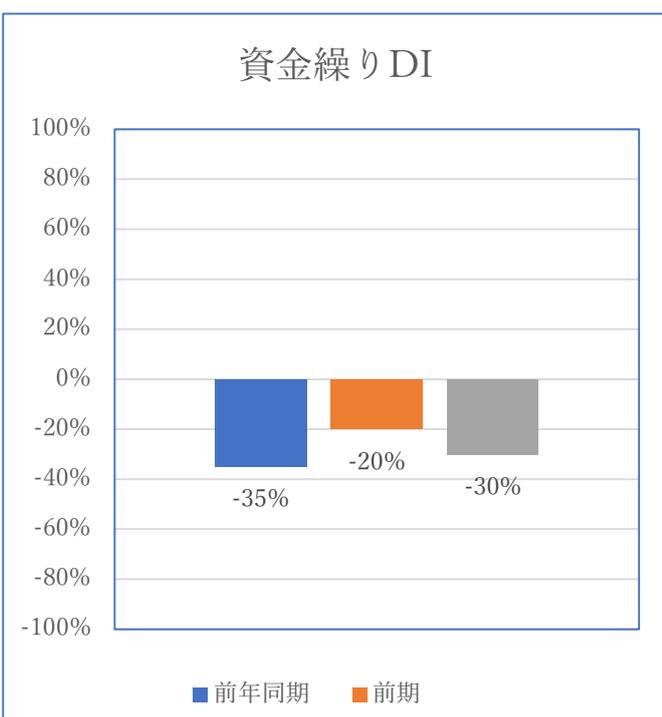
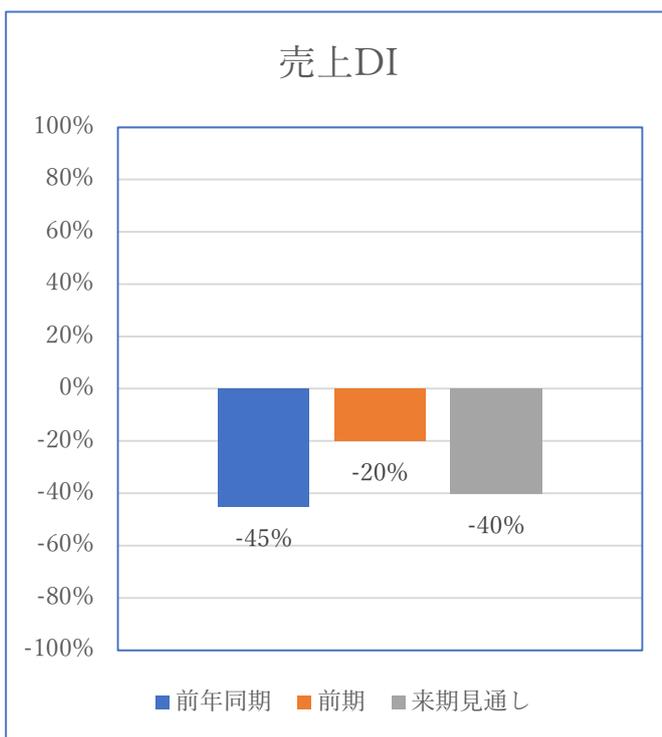
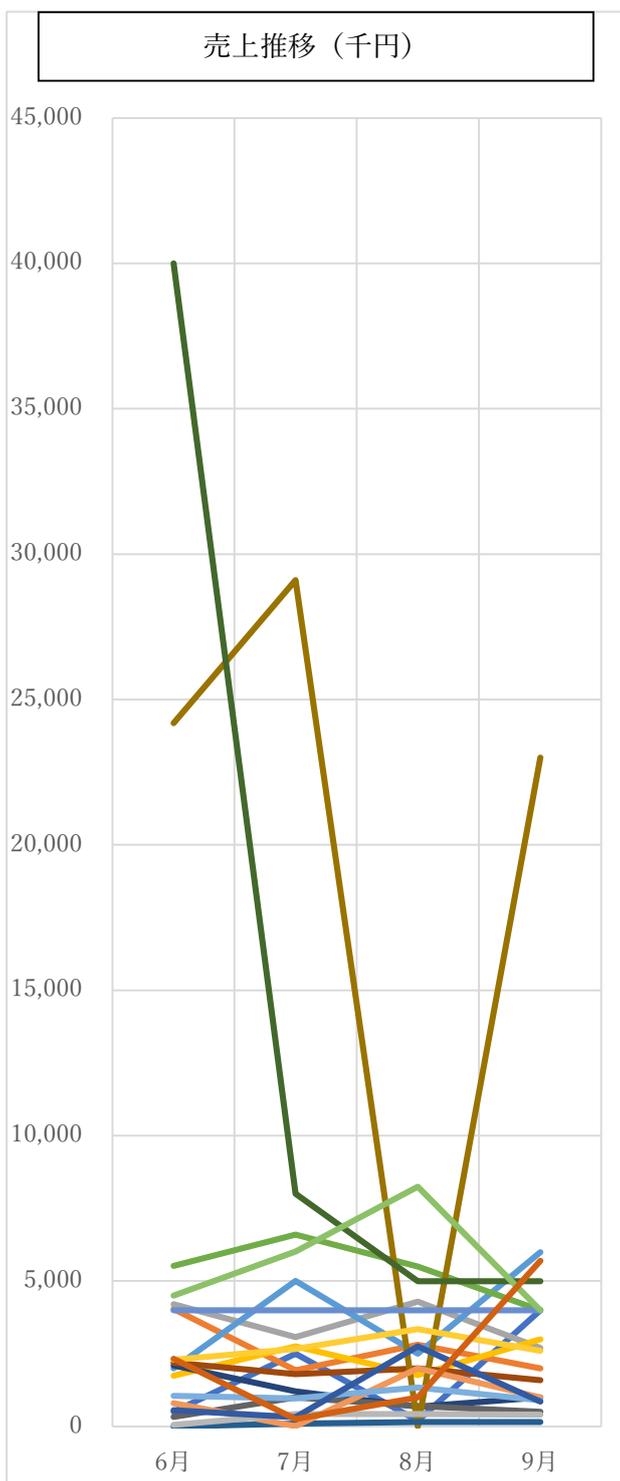
製造業の業績判断にかかるDIは、厳しい状況が続く中改善の傾向も見受けられる。  
 売上DIは前年同期比▲55、前期比▲15、今後の見通しも▲60と低い水準にあるが、4～6月調査時で前期比が35ポイント改善しており、足元の業績については若干持ち直しの状況である。  
 資金繰りDIについて、前期比▲30、前年同期比ともに▲40と厳しい状況が続く、原材料仕入単価DIについて来期見通しで若干の上昇の声があり、利益率を圧迫する要因が見込まれる。  
 製品在庫DIは前年同期▲20、来期見通し▲15と足元減少の動向であり、在庫の圧縮傾向が続く。  
 従業員増減DIは、前年同期+15、来期見通し+5と若干のプラスに転じている。  
 設備投資について、依然として低迷しているが来期に設備投資を予定している企業の数が増加している。内容は生産設備に関するものが多い。  
 経営課題としては、需要停滞を上げる企業が最もいい区、その他生産設備の老朽化、熟練技術者の確保困難など製造業特有の課題が挙げられている。

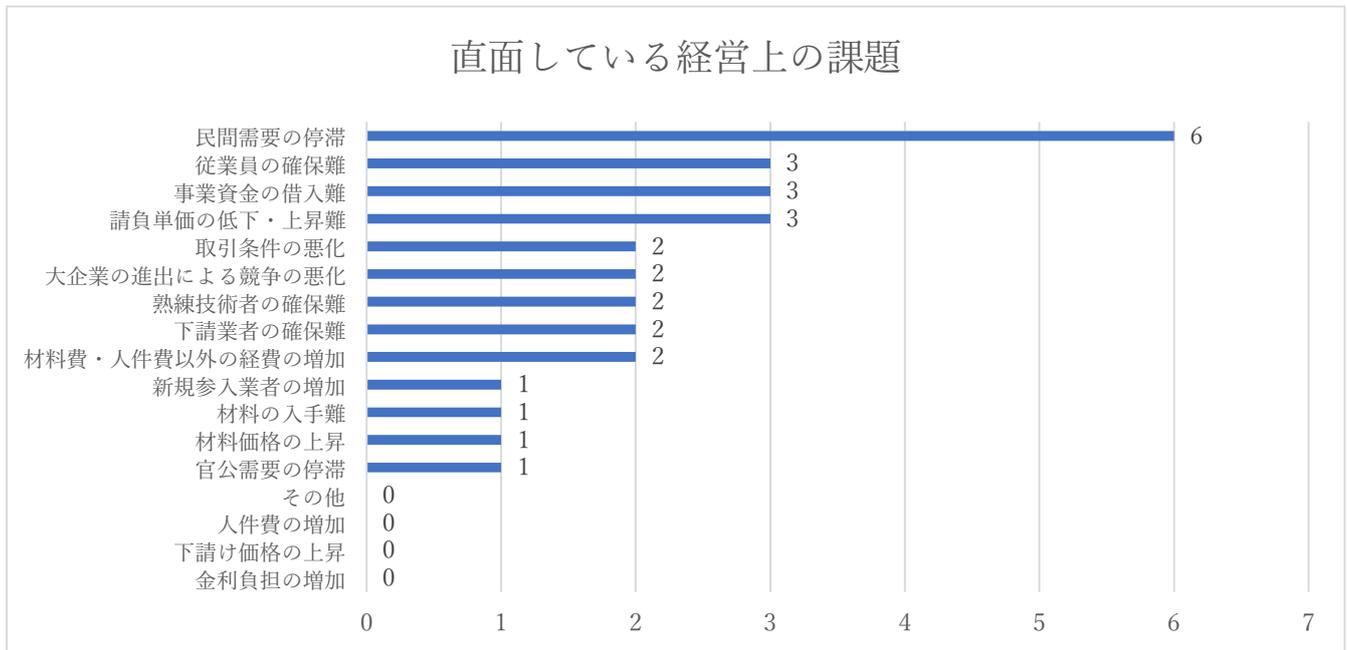
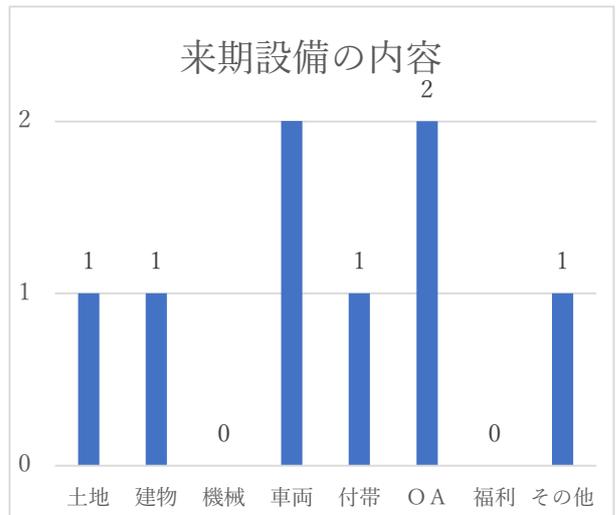
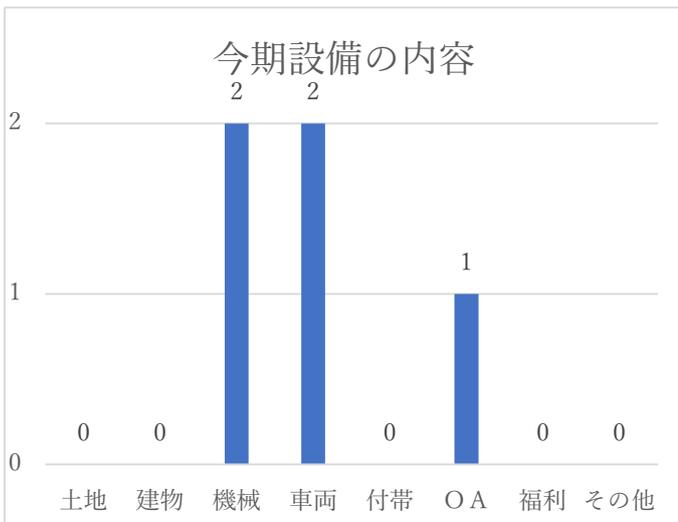
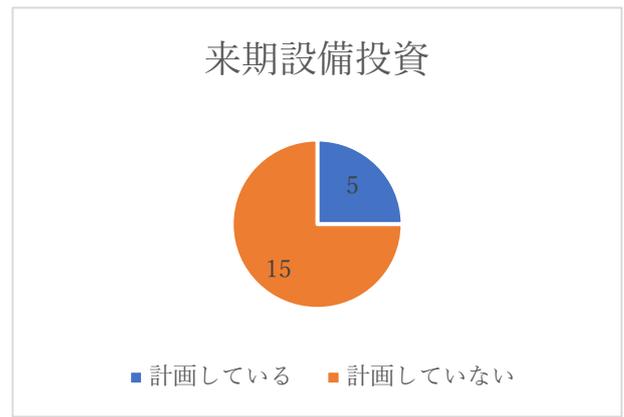
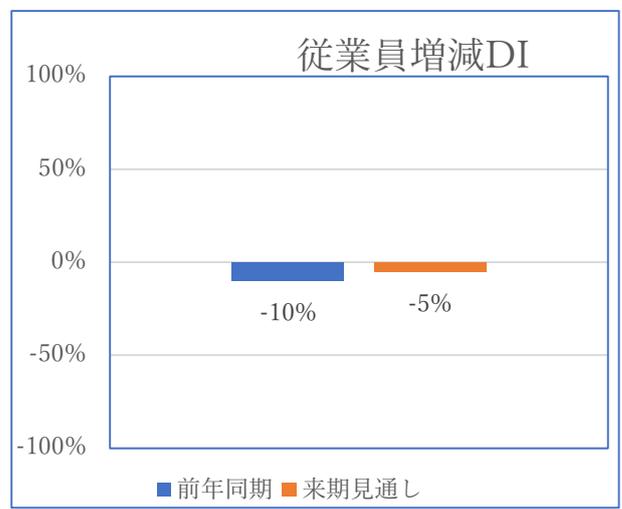
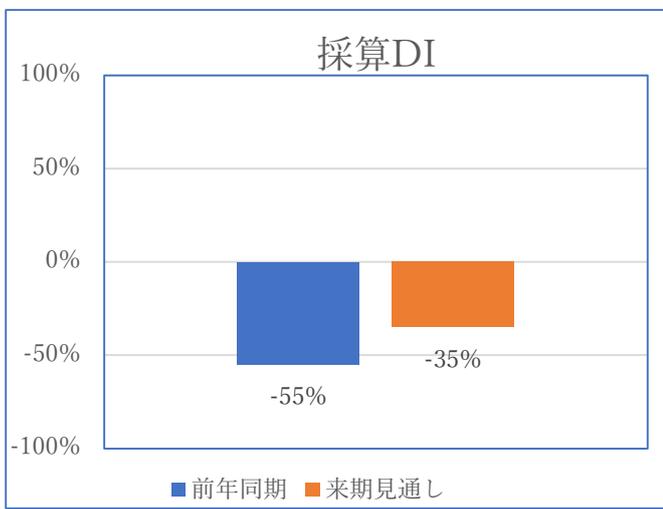




コメント

建設業の採算に関するDIは、厳しい状況が続いているが持ち直しの動きもみられる。完成工事高DIは前年同期▲45、前期▲20、今後の見通しも▲45と過半数を超える事業者が減少となっているが、前期比較DIは-60から40ポイント改善している。資金繰りDIについては前期比▲20と6月調査とも変動なしである。来期の見通しも▲30となっており、依然として半数近い企業が資金繰り不安を抱えている。採算DIについては、低調ながら足元▲55から来期見通し▲35と、若干の改善傾向が見受けられる。設備投資については、足元は低調である。来期は若干の増加傾向である。経営課題としては、民間需要の低迷、従業員の確保困難、事業資金の借入難、請負単価の低下を挙げる企業が多い。

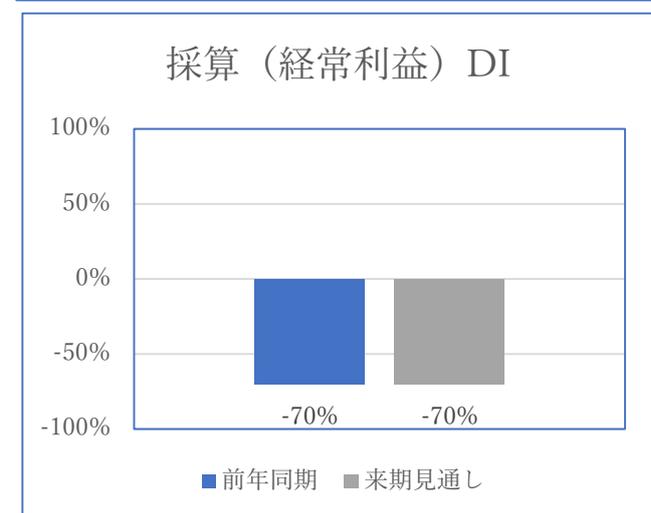
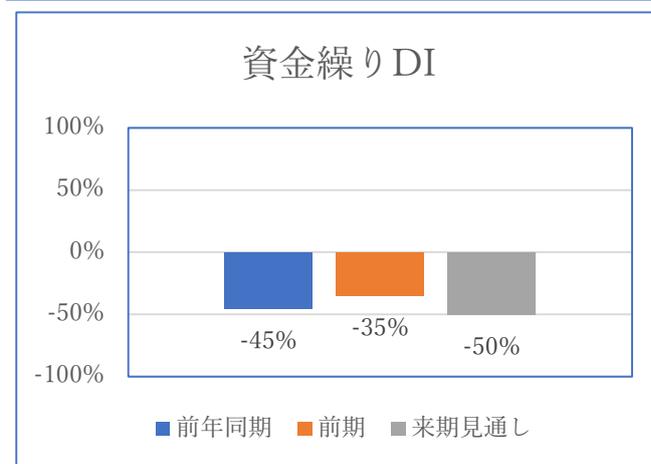
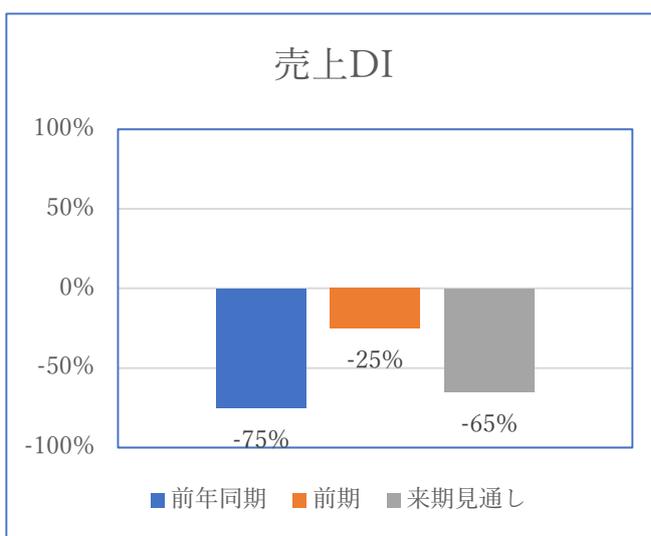
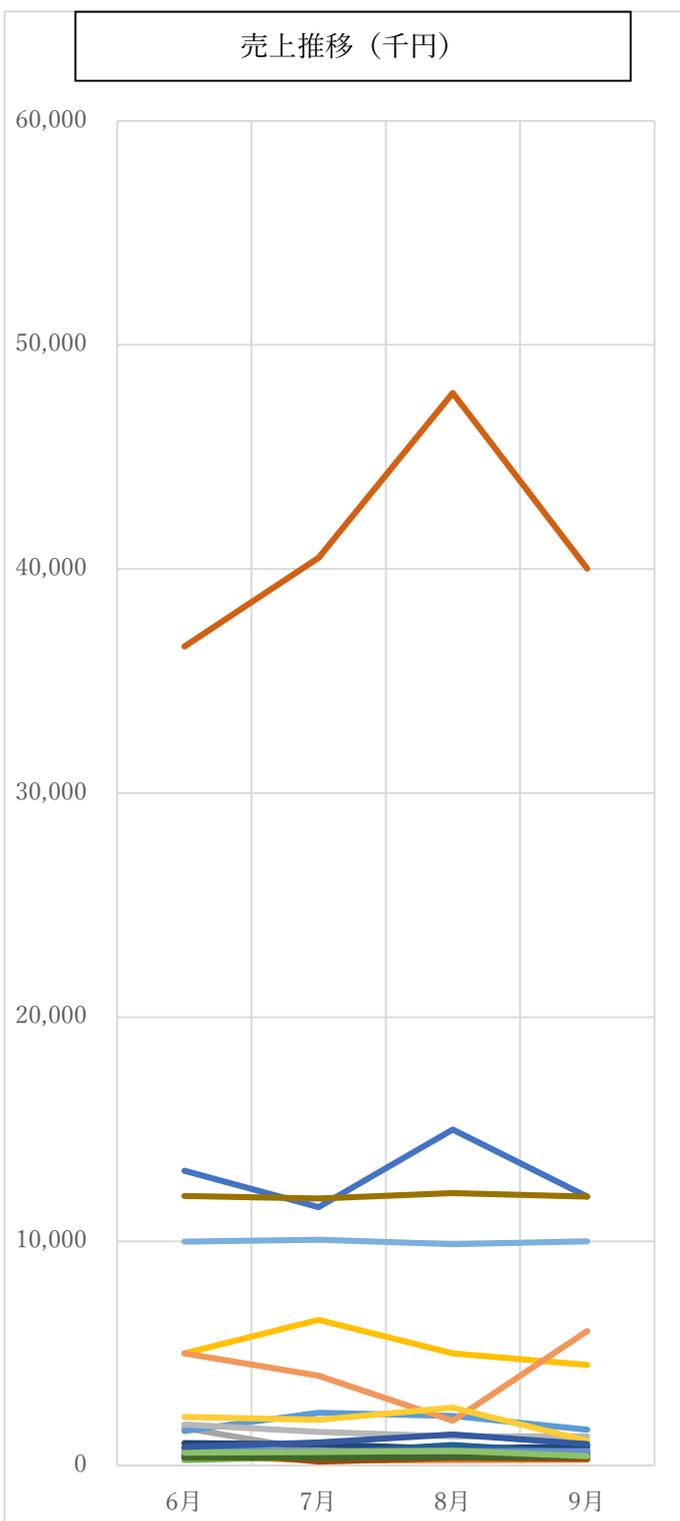


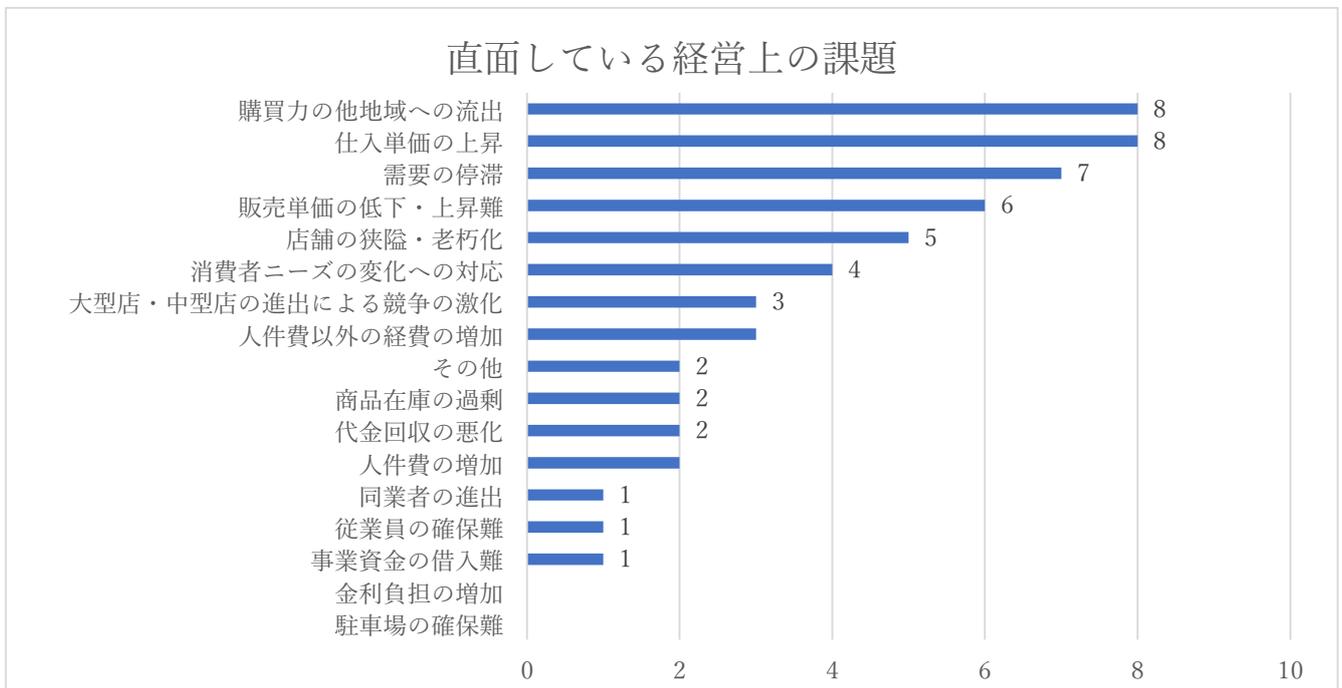
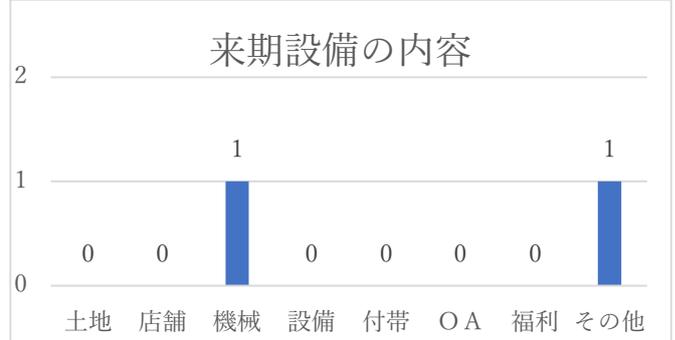
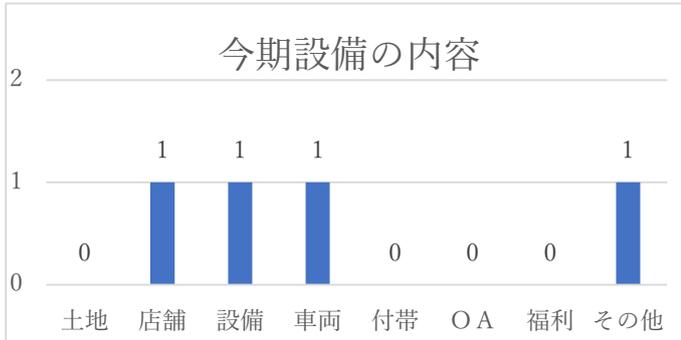
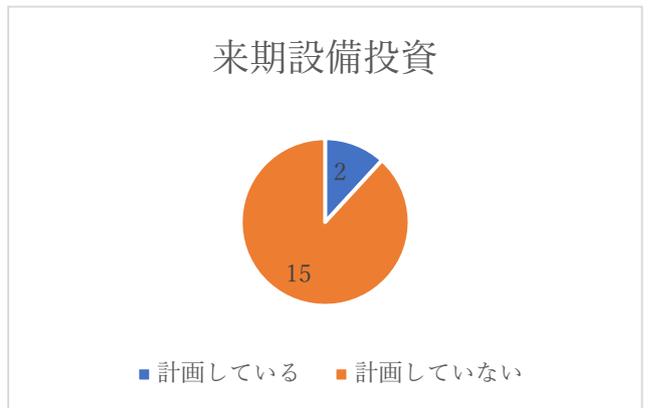
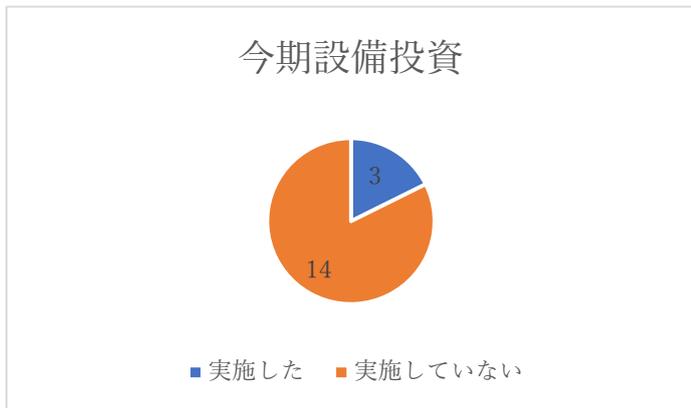
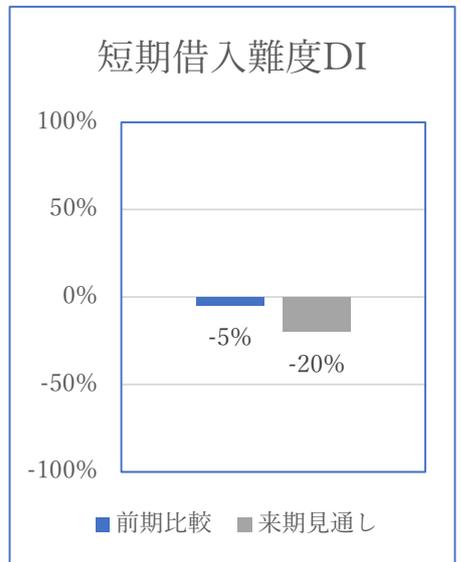
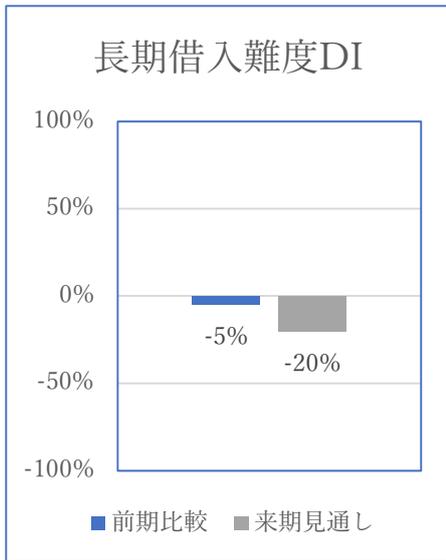
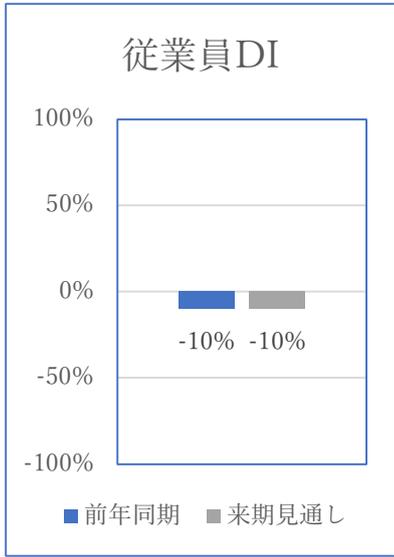


卸小売業（2020年7月～9月）DI 値抜粋

コメント

卸小売業の業況に関するDIは、足元で若干の改善はあるが極めて厳しい状況が続いている。売上DIは前年同期▲75、前期▲25、今後の見通しも▲65と厳しい現状である。前期が底ではあるが今後また減少を見込んでおりコロナ禍からの回復を見通すことが出来ていない。資金繰りDIについても前期比▲45、前期▲35と足元で厳しい状況がうかがえ、来期も▲50と改善は見込めない。採算DIも前年同期、来期見通しも▲70と極めて厳しい収益状況が続く。人材に関しては従業員について、前年同期▲10、来期▲10と減少傾向が続く。借入金について、長期借入、短期借入いずれも前期比較▲5、来期見通し▲20と今後の借入金調達が難しくなると予測する企業が多くなっている。設備投資については、現状も来期についても低調である。経営課題としては、前期と比較して購買力の他地域への流出を上げる企業が最も多くなっており、コロナ禍以前からの課題が顕著化している。そのほか仕入れ価格上昇、需要停滞等収益に直結する問題を上げる企業が依然として多い。





飲食宿泊業（2020年7月～9月）DI値抜粋

コメント

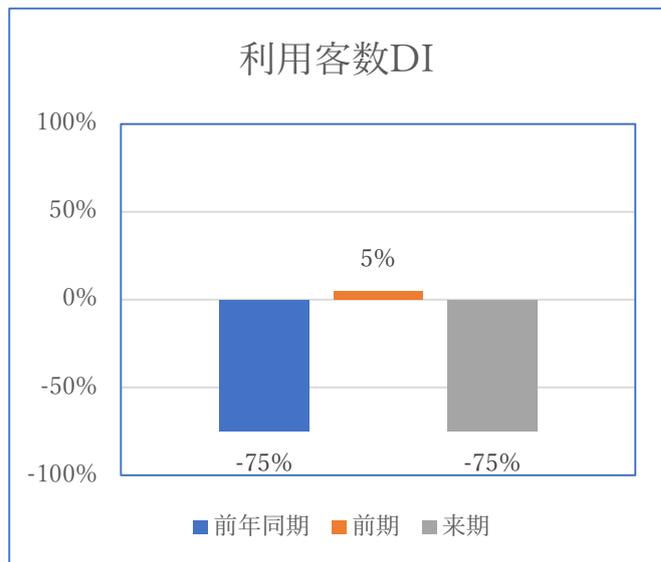
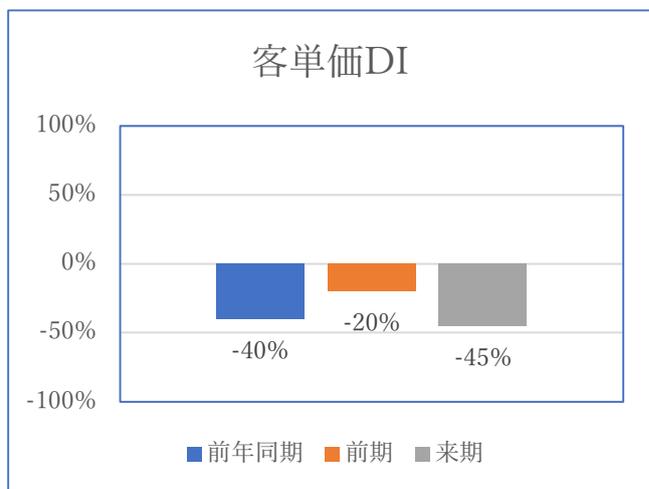
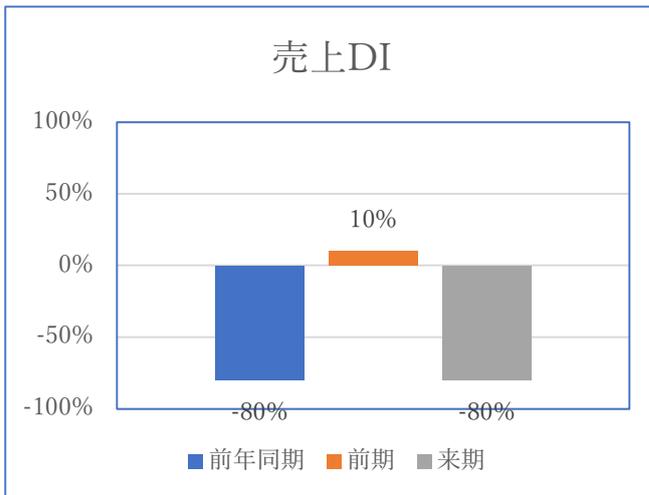
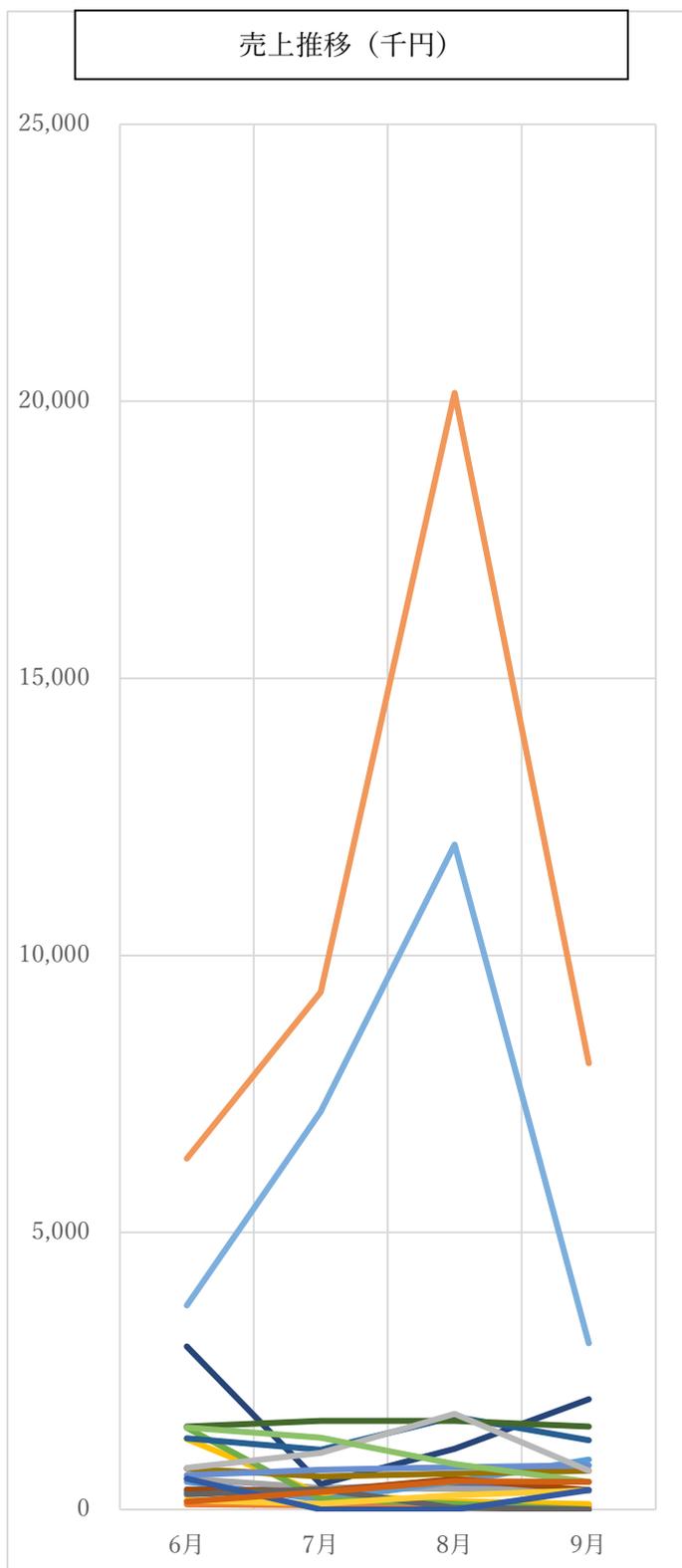
飲食宿泊業の業況に関するDIは、全業種の中で最も厳しい状況が続いているが、夏場の回復がみられる企業もある。

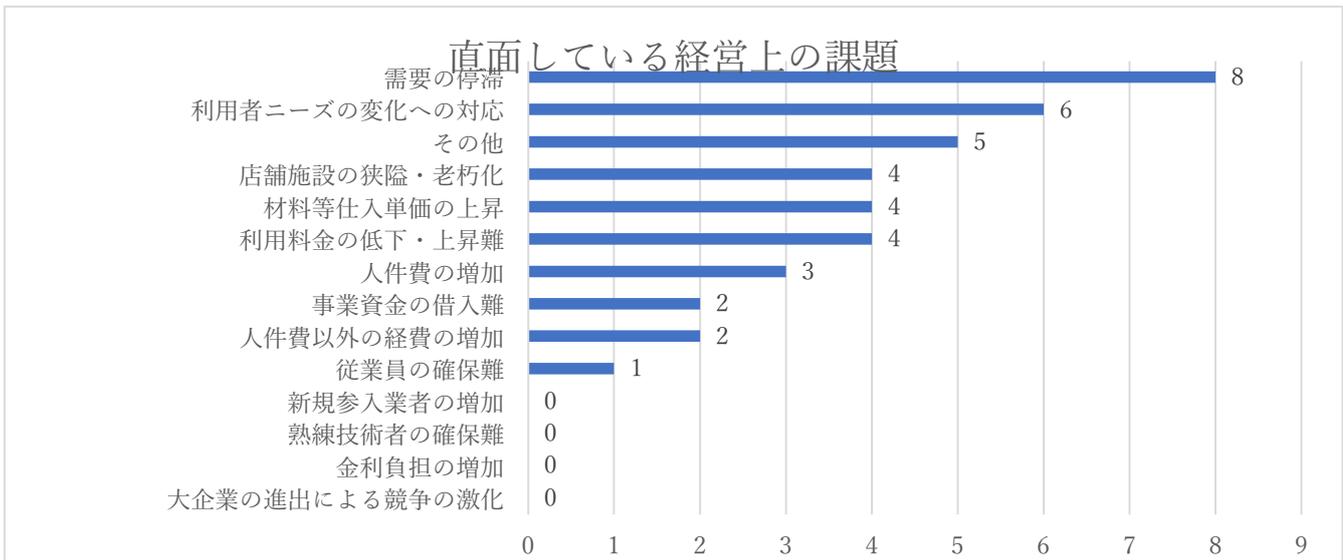
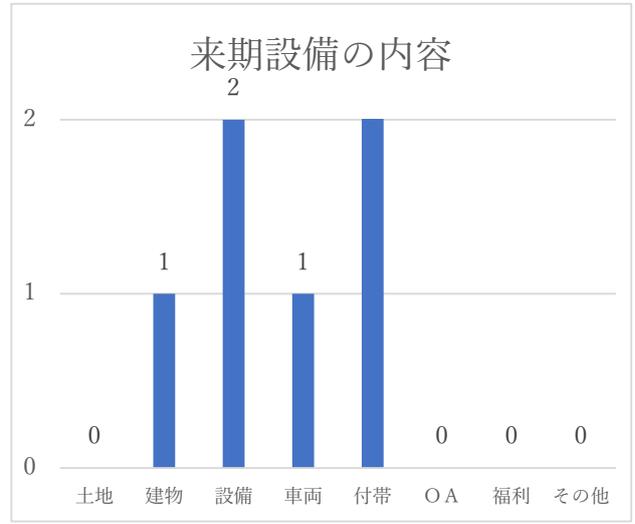
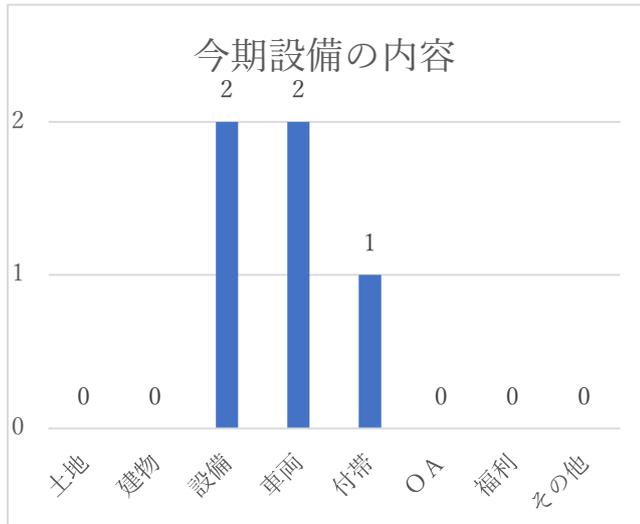
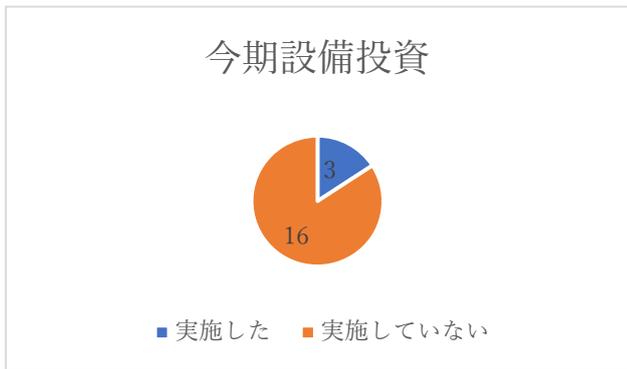
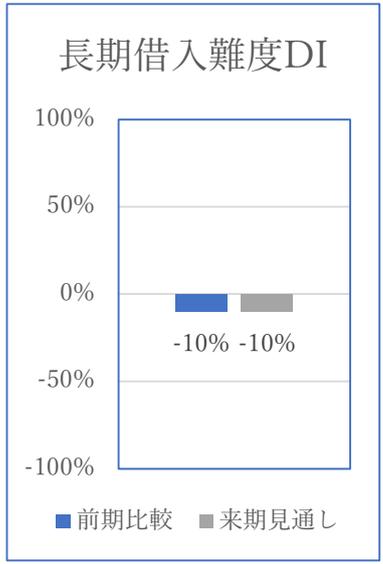
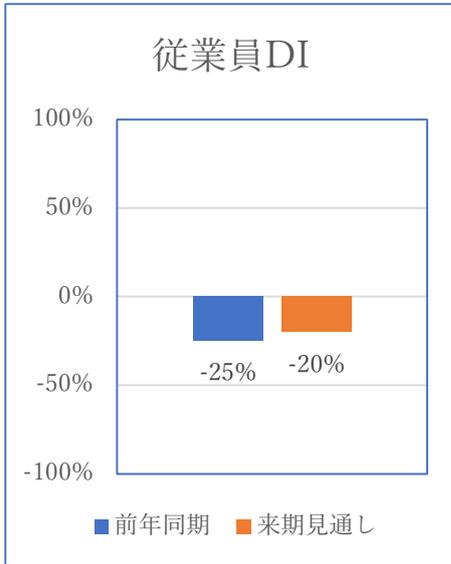
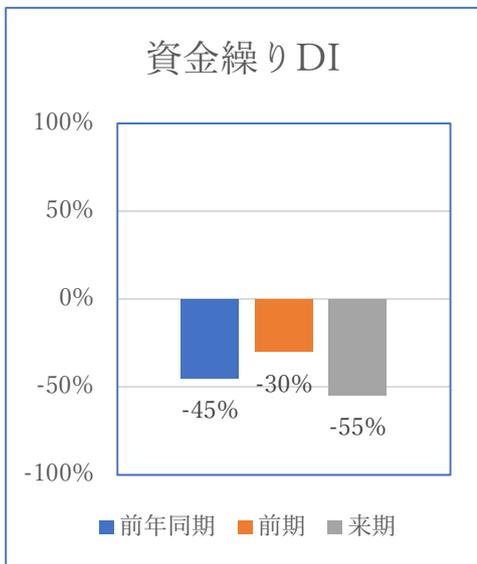
売上DIは前年同期▲80、前期+10と、コロナ第一波の緊急事態宣言下からは売上の下げ止まりが見受けられる回答となったが、今後の見通しは▲80と極めて厳しい見通しである。

客単価DIも低調で、前年同期▲40から前期▲20と若干持ち直すが、今後の見通しも▲45と低下している。客数DI前年同期▲75、前期▲+5、今後の見通しも▲75と低調である。緊急事態宣言解除後の観光需要などが夏場の消費を押し上げたが秋口に昨年なみの消費を見込んでいない。

資金繰りDIは前年同期▲45 前期比較▲30 来期▲55と前回調査時とは30ポイント程度か服しているが依然として悪いと回答する事業者が多い。

従業員DIでは、前年同期▲25、来期見通し▲20となっており、従業員を減らす動きが継続している。設備投資について、依然として低調である。経営課題としては、需要低迷、利用者ニーズへの変化対応を上げる企業が多い。





サービス業（2020年7月～9月）DI 値抜粋

コメント

サービス業の業況に関するDIは、足元で売上の回復が見受けられたが、来期に向けては再び低迷を懸念する内容である。

売上DIは前年同期▲25、前期±0、でありコロナ禍の下げ止まりがあったが前年並みの売上を見込んでいる企業は少なく厳しい見通しである。

客単価DIは、前年同期▲20、前期▲5、今後の見通しも▲35と前年比で低下している、客数DI前年同期▲55、前期▲5、今後の見通しも▲45と低調であり、回復はまだまだ見込めていない。

資金繰りについても依然として厳しい状況で前期比▲10、今後の見込みも▲20と低調である。

仕入や借入金に関しては顕著な動きがない。設備投資について今後機械設備や付帯設備の投資を予定する企業は前回調査時から増加傾向である。

経営課題としては、利用者ニーズの変化への対応、需要の停滞、仕入れ単価コスト上昇を上げる企業が多い。

